

文部科学大臣賞

「私の異文化体験—愛の伝え方」

タウン ラ

Ms. Tawng Ra

(ミャンマー・大学生)

4年前に来日。日本語学校、英語専門学校を経て、現在は大学の欧米文化学科2年に在籍しています。色々な地域の文化を学び、将来は通訳や翻訳の仕事ができれば、という夢を持っています。



ミャンマーからまいりました聖学院大学のタウンラと申します。東日本大震災で被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

今日私は、ミャンマーと日本の異文化体験、特に男女の愛の伝え方の違いについて、感じたことをお話しさせていただきたいと思います。

日本に来て、レストランでアルバイトを始めた私は、お客さんたちの姿を見て気づいたことがあります。それは日本とミャンマーでの男女の付き合いのはじまり方が違うと言うことです。

レストランで、初めてかなと見えるカップルは、遠慮している感じで、静かな話し方をしています。注文する時も『何が好きですか？……牛肉は大丈夫ですか？』と聞いたりして相手に気を使っています。そのカップルが何回か来ているうちに、前よりにぎやかな話し方になっているのを見ると恋人になったらいいと感じます。そのうちに、男性は自分の親をレストランに連れてきて彼女を紹介し、みんな一緒に食事をしながら会話をすることもあります。でも、そのカップルの間に愛の言葉のようなものはあまり聞かれません。

それで、ある日私は、こんなことを日本人の友達に話したことがあります。

ミャンマーの若者たちが女の人に好きだと告白するのは歌で始まります。男性は自分の好きな女性を想像して、歌手の歌を選んだり、曲を書ける人は自分の感情を言葉に表して、その女性に歌って上げます。歌の言葉は、『あなたの目はパールと同じくらい美しい、夕やけの風が吹くと美しいあなたの髪もゆれる、あなたの美しさのせいで周りの鳥も鳴く事が出来ない、あなたの姿が目には浮かんで離れない。僕の愛は海より深い』というものです。

男性は、こういう歌を好きな女性の家または寮の前で歌います。その時、一人、二人、グループで、ギターやバイオリン、ハーモニカなどをもち、それを弾きながら気持ちをこめて歌います。歌う時間はたいいて夜の10時ごろです。もし女性はその男性に興味のない場合は『そんなことをしないで』と断ります。男性は、断られた時も、別れの歌を歌います。その歌の言葉は、『僕は涙がこぼれそう、縁がないから二人はこの世界で一緒になれない……』というようなことです。

ミャンマーでは恋人になるための出発点は歌です。そして、家族という小さな社会になるための

始まりも歌です。ですからミャンマーには昔から今に至るまで、愛する人の前で歌で告白することが人々の習慣として存在しています。

この話を日本人の友達にしたら、彼女はびっくりして、『へえ、そんなことは映画やドラマの中の話みたい』と言いました。そんなことは恥ずかしくていやだと言いました。ミャンマー人にとって、これは当たり前のことなので、彼女が恥ずかしいと言ったことに私はびっくりしました。

そういえば、日本では男の人が女の人の前で愛の歌を歌っている姿を見たことがありません。日本では食事に誘うことで付き合いを始めることが多いように思います。

日本人の友達に『ラーさんはミャンマー式と日本式のどちらのスタイルで告白される方がいいですか』と聞かれて考えてみました。皆さんは、どちらのほうがいいですか。……。

私は日本に来る前は、ミャンマーの告白の仕方が他の国と違っているなんて全然知らなかったんです。当たり前だと思っていた自分の国の習慣は、外から見ると、独自のものだと言うことが分かりました。そして、歴史の中で続いてきたミャンマー独特の習慣が大切だと気づきました。こういうことは、日本で異文化体験をしなければ、わからなかったでしょう。

一方、日本の男性たちは、歌で告白しないし、『愛してる』ともあまり言わないけれど、好きな女性の趣味や意思を尊重して、一緒に映画を見に行ったり、遊園地に行ったりして、やっぱり彼女を一番大事にしていることが分かりました。また、相手を尊敬することや人と人とのルールを守ることも分かりました。伝え方は違っても、心の中にある愛は、ミャンマーも日本も同じだと気づきました。

いつか、私の生涯のパートナーとなる人が現れたとき、ミャンマー式と日本式、どちらのスタイルで告白してくれるのでしょうか。それとも、そのどちらとも全然違った文化のスタイルなのでしょうか。

今の私の気持ちは、自国の文化も相手の文化も大切にする人ならば、その方法は問題じゃないということです。でも、残念ながら、方法が違うことで、誤解されたり、心が伝わらなかつたりすることもあります。

私は、これからも日本やミャンマーをはじめ、いろんな地域のことを学んで、文化や習慣の違いのせいで生じる誤解を解き、人と人、国と国との間の小さな架け橋になる仕事に就きたいと思っています。そのためには、大学や社会で、もっともっと勉強しなければなりません。